

話題提供 1：足立祐子

「中国帰国者の中学生を対象とした日本語教室から：数学で日本語を学ぶ」

日本語教室の概要

足立 では、「中学生を対象とした日本語教室から」というタイトルで発表させていただきます。この発表では私が関わっているボランティアグループによる今年 8 月 1 日から 8 月 8 日に行った日本語教室の報告をさせていただきます。このような教室は地域のいろいろな所で行われていると思うのですが、今回私どもは次の 2 点にポイントを置き進めていこうと計画いたしました。1 点は教科学習に繋がるような日本語教育、もう 1 点はたまたま学習者が中国語話者でしたので、母語をふんだんに使いながら授業を進めていくことができないかという点です。

私は公立中学校・小学校に在籍する外国人児童を対象として現在研究を進めております。この研究のきっかけは昨年夏まで新潟市国際交流協会という財団法人で 1 年半に渡って個別に外国人児童、これは小学生がほとんどなのですが、個別に日本語を指導してきたということと、それから、3 年前からボランティアグループに関わっているのですが、そのグループは成人対象の日本語教室でしたが、そこに外国人児童が参加する人数が増えてきたということで、昨年の秋からボランティアグループで子どもの日本語教室というものを別に作りました。その中で、年少者に対する第二言語教育に非常に興味を持ちまして、今このように関わっております。

前回の報告書の中で、私は次の 3 点について提言いたしました。1 点は、地域社会の中で外国人児童の母語を保持、または高める。2 番目は学校内で加算的に言語併用教育を推進する。3 番目は教科学習における教材や教授法の研究を行う。「加算的言語併用教育」ということは筑波大学の岡崎先生のことばをそのまま使っているのですが、バイリンガル教育の中で学習者の母語を含めて、それにプラスするような形で、これが加算的ということばになっていると思うのですが、プラスするような形で第二言語、日本語教育の場合は日本語を勉強していこう、学習していこうというものです。これと対照的に「減算的言語併用教育」ということばもあります。これは、第一言語を第二言語に置き換えて教育を行っていこうというもので、このように提言しましたがけれど、新潟市の公立小・中学校で実際に行われているのは減算的言語併用教育です。これは、外国人子女の生徒数が非常に少ないということもあり、現実問題として無理なのが実態だと思います。それで、私どもボランティアグループは地域社会の中での日本語教室で加算的言語併用教育ができないかと昨年度から考えていました。今回そういう意味で、この 2 番目と 3 番目の母語をふんだんに使った教室、それから教科学習に繋がる教室ということで計画いたしました。

日本語教室は先ほどもお話しいたしましたように、8 月 1 日から 8 月 8 日まで一日 3 時間、計 21 時間行いました。場所はその中学の校区内、実は成人向けの日本語教室は新潟市内で新潟市が提供してくれるフリースペースを使っているのですが、そこまで通うのが子どもたちにとっては非常に困難なので、思い切って校区内でやろうということでコミュニティセンターを利用いたしました。

学習者は全部で6名です。そのうちの5名が中国帰国生徒といわれている中国帰国者の呼び寄せ家族です。その5名は厳密に言えば、皆親戚関係にあたる方々ですので、来日が皆同じ時期なのですが、昨年度の12月下旬に来日しました。年齢は13歳から17歳です。中学3年生に在籍している子どもたちは15歳、16歳、17歳の3名でその子たちは中国で中学の学習項目は修了して来ています。それから、13歳と14歳の子どもは中学2年生にいますが、13歳の子どもは女の子なのですが、中国で小学校を卒業してそのまま中学の勉強をしないで中学2年生に在籍しているそうです。あと一人は私たちが関わっているボランティアグループの子どもの日本語教室に来ていた中国人の学生なのですが、是非参加したいということで、じゃあ一緒にということで、計6名で教室を進めていきました。

指導者は私とずっとボランティアで3年間関わってきている瀧澤恵子さんという方と2人、それと高校生がよく手伝ってくれるのですが、高校生3名が2日間に渡って手伝ってくれました。それから、中国語をふんだんに使いたいということで新潟大学の中国人の留学生、専門は日本語科で、黒龍江大学の日本語科にいる学生で将来日本語の教師になりたいという留学生にお願いしました。実はその留学生も私たちのボランティアクラスで1年間ずっと手伝ってくれた学生なのですが、その学生と3人でやっていました。

数学で日本語を学習する

今回の日本語教室の目標なのですが、サブタイトルにあるように数学で日本語を学習するというのを考えました。その理由の1つとして、学校では皆取り出し教育を受けているのですが、その中で中学2年生は数学、中学3年生は数学と英語だけは在籍クラスで日本人の生徒たちと同じように授業を受けているので、じゃあ数学からということもありますし、それから、数学は用語や言い回しの中で非常に難しい部分もありますが、数字を介在することで他の教科と比べて簡単になっている部分もあるので、とりあえず数学という発想で行ないました。アプローチの仕方としては、教科内容に関する知識、認知的な能力がある程度出来上がっているという前提でこれを利用して教科学習に必要な日本語力を高めようというアプローチで進めていきました。そして、さらにできればこの反対の方向に教科学習に必要な日本語力を高めることで、さらに教科学習を高めていくことができないかという目論見で行ないました。

学習内容は資料(表1)にあるような形で行ないました。黄色のラインで引いてあるのは『日本語を学ぼう3』を使っております。そして、赤のラインは中学1年生の教科書から抜粋し授業を進めていきました。例えば、これは教科書からの抜粋ですけれども、3番の「時速Xキロメートルで45分歩いたら、進んだ道のりはYキロメートルであった」という、この「たら」という形を予め『日本語を学ぼう3』で勉強して、日本語の文型も練習して、その中で数学の教科書でこういう形があったねということで、ある意味では読解作業を進めていながら、授業を進めました。さらに、下の形なのですが、これは式がもうあってその式がどういうことを表しているのかということ日本語で説明する練習を行ないました。これは、私自身も個人的に非常に興味があって、こういう練習から日本語の話し方の練習に進めていく方法もあるのだということを感じました。

今回は学習効果の評価とかアチーブメントテストなどは行いませんでした。ただ、学習

者の方から感想を中国語及び日本語で聞いたのですが、これをまとめると、学習環境についての感想一つにまとめることができると思います。一つは設備。これはコミュニティーセンターのことなのですが、校区内にあって良かった、非常に通いやすかったということです。それから、ソフト面として、私は社会教育の場としての日本語教室と挙げましたが、中国語の使用、これも学習者の方から評価がありました。それから、これは思っていなかったのですが、高校生の参加が良かったということです。実は高校生に呼びかけているのは、社会教育の場で、指導するとか教わるという形ではなくて、参加者が皆何か意義があればいいということで、高校生を成人向けのクラスにも参加するように呼びかけているのです。ですから、高校生が何か得るものがあればという考えだけで進めたのですが、学習者にとっても高校生がいることが、非常に学習環境としてリラックスできる要素になったということでした。

今後の課題

最後に、今後の課題及びここで、また皆様方にいろいろお教えいただきたいことなのですが、2点あります。1点は教科学習のためにどのような日本語力が必要か。これはもう随分言われていることなのですが、現場のものとして具体的にどのような形で進めていけばいいのかというのを模索しているのが現状です。ただ、子どもたちは明日苦しいという状態ですので、できるだけある程度の方針ができればいいなと考えています。まずは教員側の問題です。教科教員としての知識。ここで言えば、数学の教師としての知識。また、日本語教師としての知識。それから学習者の母語の知識。この3つをどのように組み合わせながら指導していくかがまだ私自身よく分からないところです。次に、学習者の年齢の問題ですが、これは今回は認知的な能力、それから教科学習の内容についてはもうわかっているという前提で、それを利用して日本語学習につなげていきましたが、年齢の低い子どもたちの場合はこのようにはいかないと思います。その点についてもまだ私の方で疑問に思っているところです。

それから、2点目はボランティアベースで社会教育の中でいろいろ日本語教育を取り入れていきたいと思っているのですが、この場合に学校教育とどのように連動していけば一番理想としてやっていけるのか、そのようなモデル作りが必要なのかどうなのかということもまだわからない状態です。以上です。

吉野 ありがとうございます。それでは、早速質問に移りたいと思います。説明をもう少し詳しくお聞きになりたいというところがもしありましたら、そういうことでも結構かと思いますが。それでは、また後ほどディスカッションの方でお出しいただくことにします。足立さんの方から前もって伺っている限りでは、最後におっしゃいました社会教育の場と学校の教科の連携をどのようにしていったらいいかということについて、特に現場の小学校・中学校・高校の先生方からコメントをいただきたいというようなことですので、後ほど時間がありましたら伺いたいと思います。それでは、引き続きまして2つ目の話題提供に移ります。大阪インターナショナルスクールの太田垣明子さんで「話し言葉教育について 年少者日本語教育の実践の側から」ということをお願いいたします。

表1 「学習内容」

- 第1日 1)数学「エプロンを作ろう」 小数、整数の概念、計算法
Vように言う(間接話法) 縮約数 ~ても ~ば ~になおす
2)英語 be 動詞 疑問文 否定文
- 第2日 1)数学「リレーの練習」 円、半径、直径、円周、円周率
それぞれ ~を求める
2)数学「かだんの広さくらべ」三角形、面積、直角三角形、頂点、対角線
~を~にかえる ~ば、Vそうだ ~さ(形容詞の名詞化)
3)英語 be 動詞 人称代名詞
- 第3日 1)数学「合わせていくつ?」 分数 通分
Vてくれる Vたことになる
2)数学「森林の面積」割合、何倍、もとにする量、くらべられる量
~は~にあたる ~だとしたら、~は~になる
3)英語 be 動詞 複数形
- 第4日 1)数学「買い物」分数のかけ算、わり算
Nの場合、V場合 ~ばいい
2)数学「コーヒー牛乳」比、割合、~対~、比の値
~をもとにして (辞書形)ことがある ~すぎる ~やすい、~にく
い
3)英語 中3 一般動詞 中2 今までの復習
- 第5日 1)数学 教科書から抜粋 文字式、等式、方程式、四則計算
日本語の文章を読み、式に表す練習
2)英語 中3 疑問詞 中2 今までの復習
- 第6日 1)数学「ひとつが変わるともうひとつが変わる」比例、反比例、
~につれて ~にともなって ~てたまらない
2)読解 使役形、使役受け身形、Vと~
3)英語 中3 疑問詞 中2 今までの復習、一般動詞
- 第7日 1)数学 教科書から抜粋 比例、反比例 グラフの書き方
2)読解「食料の輸入」 ~その一方で~ そのため ~にたよっている
3)まとめ

参考文献

- (1) 寺田裕子(1994)「義務教育課程における教科教育を目的とした日本語指導 - 中南米からの日系就労者子弟への社会科・数学指導の実践報告」『日本語教育』83号
- (2) 池上摩希子(1994)「中国帰国生徒に対する日本語教育の役割と課題 - 第二言語教育としての日本語教育の視点から - 」『日本語教育』83号
- (3) 文部省(1995)『日本語を学ぼう3』ぎょうせい